


第3次食育推進計画の数値目標

資料1

指 標	第2次計画 現状値(H25)	第2次計画 目標値(H30)	第3次計画策 定時の現状値(H31)	第3次計画 目標値(H35)	(参考) 国の第3次計 画目標値(H32)
① 食育に関心を持っている市民を増やす					
食育に関心をもっている市民の割合	74.4%	90%以上	71.0%	90%以上	90%以上
② 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数を増やす(注)					
朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	91.4%	朝食、夕食週に10回以上	朝食、夕食週に10回以上 47%	朝食、夕食週に10回以上 55%以上	週11回以上
③ 地域等で共食をしたいと思う人が共食する割合を増やす※					
地域等で共食をしたいと思う人が共食する割合	—	—	52.0%	60%以上	70%以上
④ 朝食を欠食する市民を減らす					
朝食を欠食する市民の割合	学校における調査結果	1.6%	0% (小・中学生)	1.8%	0%
		25.0%	20%以下 思春期 (16~18歳)	19.0%	15%以下
		36.4%	30%以下 青年期Ⅰ (19~29歳)	40.0%	35%以下
		25.3%	20%以下 青年期Ⅱ (30~39歳)	21%	15%以下
⑤ 学校給食に係る地場産物を使用する割合を増やす					
学校給食における地場産物を使用する割合	学校における調査結果	—	設定無し	45.1%	45%以上 30%以上
⑥ 栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす。					
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	59.5%	65%以上	60.0%	65%以上	70%以上
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている子育て世代の割合※	—	—	44.0%	50%以上	55%以上
⑦ 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践する市民を増やす。					
生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践する市民の割合	42.7%	50%以上	37.0%	50%以上	75%以上
適正体重と判定される市民の割合(小・中学生)	学校保健統計より	84.6%	85%以上	86.7%	87%以上
適正体重と判定される市民の割合(16歳以上)※	—	—	68.0%	70%以上	—
いきいきiwaki食育・健康応援店の登録数※	—	—	26店舗	50店舗	—
外食や食品を購入する時に、栄養成分表示を参考にする市民の割合	56.3%	60%以上	62.0%	70%以上	—
⑧ ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす※					
ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合	—	—	42.0%	50%以上	55%以上
⑨ 食育の推進に関わるボランティアの数を増やす					
食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している市民の数	171人	250人以上	216人	250人以上	37万人以上
⑩ 農林漁業体験を経験した市民を増やす					
農林漁業体験を経験した市民(世帯)の割合	52.7%	60%以上	37.0%	40%以上	40%以上
⑪ 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす※					
食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	—	—	73.0%	80%以上	80%以上
⑫ 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民を増やす※					
地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合	—	—	28.0%	35%以上	50%以上

	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている子育て世代の割合		—	—	41.0%	50%以上	60%以上
⑬	食品の安全性について、基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民を増やす※						
	食品の安全性について、基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合		—	—	62.0%	70%以上	80%以上
	食品の安全性について、基礎的な知識を持ち、自ら判断する子育て世代の割合		—	—	65.0%	70%以上	65%以上

注1 ※については、第3次計画から追加となる新規の指標となります。

注2  については、第3次計画目標値を前回の庁内会議から変更した値です。

注3 現状値については、無回答も含めた値となっております。